

自 己 評 価 表 ( 最 終 )

愛媛県立今治北高等学校 (大三島分校)

学校番号 ( 1 6 )

教育方針	地域と生徒の実態に即した教育を推進することを通して、地域を愛する態度や地域課題の解決に向けた実践力を養うとともに、情報化・国際化社会を生きるために必要な力を身に付けさせ、心身ともに健康で地域の核として活躍できる人材を育成する。	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自主学習の習慣を身に付けて確かな学力の充実を図る。</li> <li>2 誠実な心と礼儀正しい生活態度を養う。</li> <li>3 心身の鍛錬に努め、健康でたくましい人間性を育てる。</li> <li>4 美しい学校づくりを通して公共心の涵養に努め、愛校心の高揚を図る。</li> </ol>
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学 習 指 導	わかり易い授業の工夫	年間2名以上の研究授業を行ったり、授業公開・相互参観期間を2週間以上設けたりすることで教員相互の指導力の向上を図るとともに、ICTを積極的に活用した教育活動を実践する。また、生徒授業アンケートを実施し、満足度90%以上を目指す。 A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：75%以上 E：75%未満	C	研究授業や授業参観は予定通り実施し、教員の指導力向上及び授業改善につなげることができた。一方、生徒へのアンケートでは、前年を下回る結果となったことから、生徒の学力や実態をより正確に把握し、生徒自らが主体的かつ意欲的に取り組める授業を実践することが課題として残った。	研究授業や授業参観は次年度も計画的に実施し、引き続き教員の指導力向上と授業改善に努める。各種研修会を通して生徒の実態を的確に把握し、それに応じた授業展開を実践するとともに、生徒一人一人が主体的かつ意欲的に取り組むことができる授業づくりに努める。
	指導内容の定着	年間5日の学習支援日を設けたり、個別に課題を与えたりするなど生徒の実態に応じた学習指導や学習への支援を行い、 <u>生徒一人一人の進路実現を見据え、必要な学力を身に付けさせる。</u>	A	学習支援日を考査期間中に効果的に実施することで、生徒の自主的な学習を促すとともに、学習習慣の確立や進路意識の高揚につなげることができた。	次年度も引き続き学習支援日を効果的に設定し、生徒の学習習慣の確立に努め、進路実現に必要な学力の定着を図る。
	家庭学習の充実	効果的な学習課題を研究して家庭学習の定着を図り、課題の適切な評価を行う。また、考査期間中の学習時間調査や放課後学習会の実施を通して、考査期間中の平均学習時間4時間以上を確保し、学年末での成績不振者0人を目指す。	C	定期考査期間中の平均学習時間は2時間52分であった。期間全体を通して、1年生及び2・3年生I型の学習時間を確保させることが課題である。	適切な課題とその評価を通して、生徒の学習意欲を喚起し、引き続き平均学習時間4時間为目标に取り組みむとともに、自らの学習課題を解決しようとする態度を育成する。
生 徒 指 導	適切な学校行事	学校行事の精選を図るとともに、本校の伝統である特色ある学校行事を充実させる。また、県内最多の45回目の野球応援優秀校受賞を目指す。	—	新型コロナウイルス感染症の影響により縮小・中止となった行事があり、評価ができないが、生徒自身が工夫を凝らし、充実させることができた。	新型コロナウイルス感染症の状況を適切に把握し、生徒の安全を確保しつつ工夫を凝らした学校行事の実施に努める。
	活力ある特別活動	すべての運動部と文化部の活動を充実させ、 <u>運動部においては県総体、文化部においては県高文祭への出場を目指す。</u>	A	日々の活動を充実させ、運動部においては県総体への出場を、文化部においては県高文祭への出場を果たした。ボート部、写真部、華道部は県レベル以上の成績を残すなど成果を上げた。	新型コロナウイルス感染症の状況を適切に把握し、生徒の安全を確保しつつ、すべての部活動の充実に努める。
	基本的な生活習慣の確立	少人数ならではの家庭的で温かい人間関係の中で、挨拶や節度ある生活態度に関するきめ細かな指導を実践し、 <u>皆勤率の向上</u> を図る。 A：40%以上 B：35%以上 C：30%以上 D：25%以上 E：25%未満	C	生徒と教員との人間関係は概ね良好であり、生徒一人一人の実情に応じたきめ細やかな指導が実践されている。皆勤率は34.1%であり、更なる向上を目指した取組が必要である。	生徒一人一人の発達段階や実情に応じたきめの細やかな指導を引き続き実践するとともに、家庭とも協力しながら基本的な生活習慣の確立に努め、皆勤率を向上させる。

※評価は5段階 (A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
進路指導	就職指導の充実	就職内定率 100%を目標に、資格取得や学力定着のための個別指導や就職指導のより一層の充実を図る。また、内定後の社会人としての自覚を持たせる指導も充実させる。	A	就職希望者（11名）は、希望の事業所・職種への就職を決定した。商業科や家庭科における資格取得指導をはじめ、各教科やホームルーム活動、総合的な探究の時間での指導を通して、社会人に向けた指導を充実させることができた。	各学年とも卒業後を見据えた計画的な進路指導を行うことができた。引き続き、3年間の指導を通して、より良い職業観や勤労観をもつ生徒を育成するよう努める。
	職場体験活動の充実	1年生を対象としたインターンシップでは、社会に積極的に貢献できる人物の育成を目指すとともに、 <u>社会の一員</u> としての自覚と責任を身に付けさせ、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	B	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4日間で計画していたインターンシップが2日間での実施となったが、活動とおして働くことの意義や社会の一員としての自覚を認識させることができた。	新型コロナウイルスの状況を適切に把握するとともに、大三島島内の事業所の協力を得ながら生徒の安全を確保した上で、計画通りインターンシップを実施することができるよう努める。
	個に応じた進学指導	一人一人を大切にされた個別指導の充実を図り、進路実現に向けて主体的に取り組む生徒を育成し、 <u>大学への合格者3名以上</u> を目指す。	A	個別指導を徹底して行ったことで、総合型選抜や推薦入試により、大学合格者5名を出すことができた。	大学進学希望者のより一層の学力の向上を図り、大学入学共通テストや国公立大学の一般入試にも対応できる実践力を身に付けさせるよう努める。
家庭・地域との連携	P T A活動の活性化	学校活性化に保護者の協力を得るため、 <u>P T A評議員会等を計画的に開催するとともに、その内容を充実させ、情報交換を密にする</u> よう努める。	—	新型コロナウイルスの影響により書面開催とせざるを得ない場合もあり、評価はできないが、会長や評議員との協力体制は維持することができた。	新型コロナウイルスの状況を適切に把握し、可能な限り保護者や地域の方と教職員の交流の場を設け、教育活動のより一層の活性化に努める。
	教育目標・経営方針の周知	分校報や分校通信、今治市の広報誌などを通じて情報発信に努めるとともに、一日当たりのホームページ閲覧数 <u>500</u> カウント以上を目指す。 <u>A : 500 以上 B : 400 以上 C : 300 以上 D : 200 以上 E : 200 未満</u>	—	分校通信の発行、各種メディアや市広報誌などに取り上げられたことで効果的な情報発信を行うことができた。また、福山市方面での情報発信も効果的であった。ホームページのアクセスカウントの方法が年度途中で変更となったため、評価はできないが、多くの方に関覧いただいている。	しまなみ海道沿線地域において、中学生が進路希望を定めていくスケジュールに合わせた、より効果的な広報活動を行う。 分校通信の発行やホームページの充実を通して、分校の活動やその良さをより一層周知する。
	学校評価の充実	教育活動全般においてP D C Aサイクルを確実に実施するとともに、教育の質の向上に努め、学校評価アンケートにおける生徒・保護者の評価向上につなげる。	C	保護者からは例年以上の良い評価を得たが、生徒からは学習面で昨年を下回る評価となった。生徒の多様性に応じた学習指導への改善が必要である。	教員が生徒との関わりを振り返り、総合的な指導力を向上させるとともに、生徒一人一人の実情に応じた教育を推進するよう努める。
組織運営	分校運営の強化	本校の伝統・特性を生かした魅力ある学校運営に努め、振興対策協議会との連携をより強化する。また、各種メディアを有効に活用し、全国募集を含め島内外の生徒へ学校の魅力をアピールし、入学生 <u>31名以上</u> を確保する。 <u>A : 31 名以上 B : 29 名以上 C : 27 名以上 D : 25 名以上 E : 25 名未満</u>	A	島内歩行大会やマリンスポーツなど、本校の特色を活かした魅力ある活動を実施することができた。また、オープンスクールや個別相談会、オンライン説明会を充実させたことや、振興対策協議会や今治市との連携・協働による生徒募集活動により、県外からの6名を含む38名の志願者を確保することができた。	新型コロナウイルスの状況を適切に把握するとともに、本校の魅力ある活動を実施し、より効果的に中学生とその保護者に本校の良さをアピールすることができるよう努め、次年度も31名以上の入学生を確保する。
	業務改善を通じた働きやすい職場づくり	機能的な組織づくりと校務支援システムの活用、 <u>職員室などの職場環境の改善</u> を通して、仕事の平準化と効率化を図り、 <u>超過勤務時間の削減</u> に努める。	A	機能的な組織づくり、職員室の座席配置や環境の改善、休暇取得やテレワークの奨励を通して、職員の良いワークライフバランスの構築をすすめることができた。	組織的な業務遂行をすすめるとともに、超過勤務時間の削減に向けた取組や風通しの良い職場づくりを引き続き行うことを通して、職員の意識改革を図る。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。